

第37回広瀬川創生プラン策定推進協議会 議事録

- 日 時:平成 30 年 11 月 2 日 (金曜日) 15:00~16:15
- 場 所:仙台市役所本庁舎 2 階 第 3 委員会室
- 出席委員:小祝 慶紀 会長、小田 隆史 会長代理、阿部 由紀子 委員、大庭 克己 委員、
日下 晋 委員、菅井 一男 委員、杉山 ふじ子 委員、佐々木 敦 委員、
多田 千佳 委員、牧野 弘明 委員、村山 隆夫 委員、山中 匠 委員
- 欠席委員:菅原 陽介 委員、西大立目 祥子 委員、深松 努 委員
- 事務局:仙台市建設局百年の杜推進部河川課
- 内 容:

<次 第>

1. 開 会
2. 挨 拶
3. 議 事

広瀬川創生プランに係る活動団体の認定制度について

4. 報 告

<報告・評価>

- ・重点事業 2 広瀬川で遊ぼう, 作並かつぱ祭り

<中間報告>

- ・重点事業 1 広瀬川 1 万人プロジェクト

5. 閉 会

■ 要 旨:

- 議事 広瀬川創生プランに係る活動団体の認定制度について事務局提案が承認された。
- 重点事業 2 広瀬川で遊ぼう, 作並かつぱ祭りについて報告・評価行い、事務局提案が承認された。
- 重点事業 1 広瀬川 1 万人プロジェクトについては中間報告行った。事業の報告・評価

■ 議事詳細：

1. 開会

○司会（吉田課長）

只今より「第37回広瀬川創生プラン策定推進協議会」を開会する。今年4月から人事異動で河川課長となった吉田である。宜しく願います。

まず人事異動等により、新たに協議会の委員をお願いしている方をご紹介します。

- ・ 仙台商工会議所 中小企業支援部次長 地域づくり推進グループ担当
大庭 克己 様
- ・ 宮城県仙台土木事務所河川部河川砂防第一班 技術次長(班長)
佐々木 敦 様
- ・ ニッカウキスキー株式会社仙台工場 工場長
牧野 弘明 様
- ・ 国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所調査第一課長
山中 匠 様

以上、4名の方に新たに委嘱させて頂いた。委嘱状については、本来であれば、市長よりお渡しするべきところであるが、机上での配布をもって交代に代えさせて頂きたい。

また、菅原 陽介 委員、深松 努 委員、西大立目 祥子 委員においては、所用により欠席とのご連絡をいただいている。

次に仙台市職員にも人事異動等により変更となった職員がいるので紹介させていただく。建設局長 小高 睦である。その他の仙台市の出席者については、資料の「席次表」をご覧頂きたい。

2. 挨拶

○司会（吉田課長）

はじめに、小祝会長からご挨拶をいただきたい。

○小祝会長

本日は委員の皆様のご協力を得ながら進めていきたいと思う。今年もあと2ヵ月となり、お忙しいとは思いますが、仙台の顔である広瀬川の創生のために、協議会に積極的に関わって頂きたい。

○司会（吉田課長）

続きまして、建設局長の小高より、ご挨拶申し上げます。

○小高建設局長

本日は、お忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げます。また委員の皆様におかれましては、日頃より、広瀬川に係る様々な施策の推進にご協力を頂き感謝申し上げます。広瀬川は言うまでもなく、杜の都・仙台を象徴し市民から長年愛されてきた仙台の財産であるが、本市では平成16年度に「広瀬川創生プラン」を策定し、それに基づき広瀬川を舞台とした市民活動を支援してきた。今後、こうした市

民活動をさらに発展させて、より一層広瀬川の魅力創出につながる取り組みを推進していく所存である。本日の議題は、こうした市民団体の支援についてであるため、委員の皆様からのご意見・ご助言を賜りたい。

3. 議事

○司会（吉田課長）

本日は全15名の委員のうち、12名の方に出席頂いており、過半数に達しているため、本会は成立している。以降の議事の進行は、要綱第6条に基づき小祝会長にお願いする。

○小祝会長

議事の前に確認する。まず、会議の公開・非公開については、非公開となる事案がないので公開として良いか。

=一同了承=

次に議事署名は五十音順で菅井委員にお願いしたいが、よろしいか。

=菅井委員了承=

それでは次第に沿って、進めさせて頂く。「広瀬川創生プランに係る活動団体の認定制度」について事務局より説明をお願いしたい。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

資料1、別紙、参考資料1に沿って説明。

○小祝会長

今の事務局からの説明に対して何か意見はあるか。

○杉山委員

市民活動のお手伝いをしてくれる方が年々少なくなって来ている。このような認定制度は、企業にとっても励みとなるので早く進めて頂きたい。名称については「広瀬川魅力創生サポーター」認定制度についてはとても気に入っている。団体区分名称の「グリーンサポーター」については、個人的に川のイメージが湧いて来ない。ただし、本心としては名称には拘らずに早く進めてほしい。

○小祝会長

杉山委員より、制度の施行を早めることで、企業のインセンティブになるといふ貴重なご意見を頂いた。国では「河川協力団体制度」という制度があるとお聞きしているが、それと今回の認定制度を比較してどのような印象を持たれたか。山中委員からご意見をいただきたい。

○山中委員

「河川協力団体制度」は、河川管理や環境保全に関するパートナーを公募する制度であるが、現在は参加する団体が少ない状況である。制度を立ち上げた当初は、従来から活動していた団体が応募していたが、その後は申請団体が増えない状況である。問題点は2点ある。1点目は、制度のメリットを河川の使用許可の簡素化としているが、その内容が不明確となっていること。2点目は、登録後、提出必要な報告書のボリュームが非常に多いことである。今回の認定制度については、メリットを明確にし、団体の活動報告等の手続きを簡素化すれば申請団体が増えると思われる。

○小祝会長

企業・団体に対して明確なメリットがないと参加するのが難しいこと、また報告書等のボリュームに関して貴重なご意見を頂いた。頂いた意見は今後要綱の中で詳細を決めるよう事務局にお願いしたい。他に何かご意見あるか。

○日下委員

登録団体・認定団体の申請時期は随時受付とするのか、それとも受付期間を定めて実施するのか。活動要件の中に”同一年度に”とあり、申請と認定時期との関係が分からなかったのでお聞きしたい。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

申請の申し込み時期などについては、現時点で明確には決めていない。今後、要綱を策定する中で決めていきたい。

○日下委員

申請があった時点から、その直近1年間という形になるのか。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

具体的にはこれから決めるが、申請があれば出来るだけ早く登録または認定団体として認定できる仕組みを考えていきたい。

○村山委員

登録団体の数を増やす方に重点を置くのか、それとも認定団体の要件にあるように活動内容の質に重点を置くのか。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

本制度は、社会貢献活動を応援する趣旨であることから、登録団体・認定団体共に増えることが望ましいと考えている。

○菅井委員

先程山中委員のお話にもあったが、イベントに参加する団体が減ってきている状況にある。目的は、企業あるいは団体に大いに参加して頂くことなので、あまり要件のハードルを高くしない方が良い。要

綱を定める時には、登録団体・認定団体の責任と権限等を要綱にしっかり記載し、名前だけの団体とならないようにしてほしい。

○小祝会長

菅井委員の意見の通り、認定されたら責任と権限もしくは義務を果たすような要綱の策定を事務局にお願いしたい。

他に何かご意見あるか。なければ、それでは名称について、制度の名称は「広瀬川魅力創生サポーター」認定制度、登録団体を「広瀬川グリーンサポーター」、認定団体と「広瀬川ゴールドサポーター」とし、認定制度については速やかにスタートできるように準備を事務局にお願いしたい。

それでは、議事については事務局提案内容通りで良いか。

＝一同了承＝

4. 報告

○小祝会長

つぎに広瀬川創生プラン重点事業に関する実施報告・評価に移りたい。事務局から説明をお願いする。

○事務局（広瀬川創生室 吉澤）

資料 2～4 に沿って説明。

○小祝会長

ただ今の説明に対して、ご意見あるか。

○菅井委員

広瀬川であそぼうについては、ここ4～5年実行委員長を務めさせて頂いている。一番の心配は天候であり、今年は天候が悪く来場者は3日間で3,300人であったが、去年は8,500人の来場者があった。天候次第で半分以下の来場者になってしまう。来場者が少なくなると売上にも影響があり、予算通りいか心配であったが、結果的には協賛企業が増えたことにより帳尻を合わせることが出来た。このような事例により、先程の認定制度の効果を大いに期待したい。認定制度を出来るだけ早くスタートし、企業が積極的に参画できるようにしてほしい。企業イメージが上がる効果も期待できる。実行委員スタッフも欠員が多くなってきており、新しく入る人もいないため、認定制度が出来れば解決できると思っている。

○小祝会長

貴重なご意見、感謝申し上げます。認定制度を早く軌道に乗せることが重要と認識した。当日参加された山中委員よりご意見あるか。

○山中委員

3日に参加させて頂いた。だいぶ天候は悪かったが、それなりに人が居たように感じた。情報コーナーとして、名取川で行っている事業のパネル展示をしたが、次回は広瀬川が身近に感じられるような内容のパネルを展示したい。また大人の方の来場が多かったので、次回は子供向けの内容にした
い。

○小祝会長

同じく重点事業である「作並かっぱ祭り」について、牧野委員からご意見を伺いたい。

○牧野委員

今年初めて仙台に来て、かっぱ祭りにも初めて参加させて頂いた。10年近く継続しているお祭りということで、非常に興味を持ちながら参加させて頂いた。アンケートの結果をみると、以外にも初めて参加される方が多かった。10年続いているお祭りであり、お子様連れで参加される方が多いため、世代が代わるとこういった結果になるのだと思った。こうした事業を続けていくと、広瀬川流域の水辺の自然環境の素晴らしさを代々伝えていけると感じた。このお祭りは、30団体に支えられて何とか実施出来ているが、人も固定化してきており、運営が厳しくなっている。かっぱ祭りについても広瀬川であそぼうと同様のことが言える。企業はCSRに対して関心が高いため、認定制度等を活用して参加を促せば、継続できると思った。

○小祝会長

スタッフの固定化、高齢化、減少というのが共通の課題として挙がっている。これらを改善すべく協議会で知恵を出していきたいと思う。他に2つの重点事業に対して、コメントや補足等あるか。

○杉山委員

かっぱ祭りに関しては、今年で11回目の開催だが、今回はスタッフに若干の新陳代謝があった。そのため、ニジマスの生簀作りでトラブルがあったが、同じ人が同じことを続けるのが難しくなっていると感じた。また川遊びでは、ここ数年間指導者を育てなければいけないと議論してきたが、今回新しく潜水の会社に参加頂き、お祭りの終了後に、その方達を対象にした川遊びの講習会を実施することで、来年に続く取り組みが出来た。また川遊びの内容については、去年まで参加無料、対象は子供のみ、1回あたりの参加者を50人規模として行っていた。しかし、こうしたやり方は運営がハードで、ボランティアスタッフから十分子供達を楽しませることが出来ないというご意見を頂いていた。今回は、1回あたりの参加人数を抽選により20人程度に絞り、参加条件を親子とし、参加費も500円で実施した。それでも大変評判が良かった。ボランティアスタッフも本当に良い笑顔で対応していた。11回目にして大きな成果と感じた。今回、協賛金が集まらなかったが、広瀬川で遊ぼうの備品と合わせて、倉庫を借りて保管している。これを維持するためにもう少し収益を改善していくのが課題と感じた。

○小祝会長

人材の継続という観点で明るいニュースであった。大事な事業なので、大変だと思うが引き続きよろしくお願ひしたい。

○日下委員

川遊びの写真を見ただけでも楽しそうなイベントと感じる。値上げのお話があったが、仙台の西部地区で行っている体験型のイベントとしては、90分の実施時間を考えると随分安いと感じた。申し込み者232人中、当選者105人だが、実際の参加者は71人しか居ない。30数名キャンセルしているのとはとても残念だ。

○杉山委員

これは毎年の課題である。30%くらいは連絡が無いまま来ない方がいる。キャンセルを見込んで、定員より若干上乗せして当選者を設定している。しかし、インストラクターには定員数で依頼しているため、仮に当選者が全員来てしまうとライフジャケットが不足するという問題が生じる。

○日下委員

場所の広さの関係でも参加者の数は増やせないと昨年聞いた。出来る人数はとにかく参加させてあげたいと感じた。

○杉山委員

今年から浅瀬に水遊びコーナーを設けたが、もう少し工夫すれば良かった。

○牧野委員

場所的な問題もある。人数のキャパを考えて実施する必要があった。ただし、申し込み者106組中100組当選とし、6組落選となったが、これについて今回は当選とすれば良かったと感じた。この辺りは反省点と思う。川遊びについては、杉山委員のおっしゃる通り難しい部分があるが、参加者は本当に楽しそうにしていたので、とても良いイベントと感じた。

○小祝会長

なるべく多くの方が参加できるようにするのと、安全の両立は難しいとは思いますが、今後も検討しながら進めて頂きたい。他にご意見無ければ、重点事業2の評価については、事務局提案の通りで良いか。

＝一同了承＝

○小祝会長

重点事業1の中間報告について、事務局よりお願いしたい。

○事務局（広瀬川創生室 吉澤）

資料5に沿って説明。

○小祝会長

事務局からも説明あったが、今回はあくまで中間報告であるため次回協議会にて評価・報告は行う

ものとする。今回の中間報告について、何かご意見あるか。

○多田委員

第6回広瀬川学校の参加者13名は1万人プロジェクトにも参加しているのか。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

こちらの参加者は1万人プロジェクトのホームページで募集を行っており、1万人プロジェクトに参加していない一般の方も含まれていると思われる。

○多田委員

おいしいウイスキーが出来るためには、きれいな水が必要であることに絡めて清掃活動を宣伝しても良いと感じた。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

1万人プロジェクト実行委員会については企業の方の参加が多いため、広瀬川学校に参加している一般の方にも今後周知していきたい。

○小祝会長

ただいま多田委員のご指摘あった通り、裾野を広げる点で色々な機会を通じて告知していくのは重要と思う。今後の活動に活かしてほしい。

中間報告に関しては、事務局説明の内容でよろしいか。

=一同了承=

○小祝会長

本日の議事は以上となるが、その他委員の方々から何かあるか。

○多田委員

本日報告頂いたイベントにおいては、協賛頂いている方々について名簿等で周知しているのか。認定制度は未だ無いが、協賛頂いている方を皆様に見える形でご紹介した方が良い。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

協賛企業については、イベントの受付にて企業名を掲げて皆様に見えるようにしている。またイベントのチラシにも協賛企業名を掲載して配布している。今後も協賛頂いた企業のインセンティブとなるような周知の方法を検討していきたい。

○小祝会長

いずれにせよ、認定制度が非常に有効になって来るとされる。他にご意見や告知等あるか。

=なし=

○小祝会長

それでは、これまでの委員からの意見については事務局でまとめていただき、議事録にて確認することとして、本日の議事はこれで終了としたい。

5. 閉会

○司会（吉田課長）

活発な議論をいただき、感謝申し上げます。事務局からの連絡だが、先ほどご報告した広瀬川1万人プロジェクト 秋の清掃活動にて、澱橋会場でドローンによる動画撮影を行った。12月を目途に広瀬川ホームページにアップするので、ぜひご覧頂きたい。

次回は、来年3月頃の開催を予定しているのでご承知おき頂きたい。

以上をもって、第37回広瀬川創生プラン策定推進協議会の一切を終了とする。

以上

この議事録について、会議の内容に相違ないことを認めます。

平成 年 月 日

議事録署名人

広瀬川創生プラン策定推進協議会 会 長 _____ (印)

委 員 _____ (印)